

講義ユニット名	細菌学		所属科目名	生体反応学
講義ユニット 責任者	こまつざわ ひとし 小松澤 均	所属	細菌学	
講義ユニット コーディネーター	さかぐち たけまさ 坂口 剛正	所属	ウイルス学	
授業方法	主として講義形式でおこなう。演習として、小テスト、アンケートなどを行うことがある。実験を中心とした実習を行う。			
概要	細菌は感染症を引き起こす主要な病原微生物である。これらは宿主の防御機構を巧みに回避し、時に重篤な感染症を引き起こす。歴史を通じて人類にとっての脅威であったが、抗菌化学療法薬の開発によって一時は制圧されたように見えた。しかし、耐性菌の出現により細菌感染症は依然として公衆衛生における重要な問題である。このユニットの講義と実習では、細菌の性質や増殖機構を理解し、さらに感染症やその予防と治療に関する基本的な知識を習得する。			
講義ユニットの 到達目標	<p>細菌の構造を図示し、形態と染色性により分類できる。</p> <p>細菌の感染経路を分類し、説明できる。</p> <p>細菌が疾病を引き起こす機序を説明できる。</p> <p>Gram陽性球菌（ブドウ球菌、連鎖球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>Gram陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>Gram陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>Gram陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、ペスト菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、フルセラ菌、レジオネラ菌、インフルエンザ（桿）菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>Gram陰性スピリルム属病原菌（<i>Helicobacter pylori</i>）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>抗酸菌（結核菌、非結核性（非定型）抗酸菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル（ムコール））の微生物学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>生体の恒常性維持における常在菌・腸内細菌と宿主との相互作用の重要性を説明できる。</p>			
講義日程	別紙日程表を参照のこと			
出席の取り扱い	講義・演習においては、出席を試験の受験要件に含めない。実習においては全ての出席を単位認定の要件とする。本試験を事前の連絡なしに理由なく欠席した場合には当該年度の受験を認めない。			
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用） 少なくとも「コアカリキュラム程度の理解」「4年生のCBTをパスするレベル」を満たすことを評価の可否レベルとする。			
評価法	試験はマークシート形式と記述形式の併用で試験を行う。本試験における合格基準点は基本的に60点とするが、得点の分布等を参考にして変更することがある。			
推奨参考書	<p>シンプル微生物学 改訂第6版 南江堂 小熊恵二・堀田博・若宮伸隆編（2018）</p> <p>標準微生物学 第14版 医学書院 神谷茂・錫谷達夫・松本哲哉編（2021）</p>			